

# 環境報告書

Environmental Report

# 2017

ケイテック株式会社



## はじめに

ケイテックは電子機器の設計、試作、生産、サービス役務提供全般を事業内容として2005年に設立され、創業以来、「お客様に喜んでいただく製品・サービスの提供」「日本で出来る事にこだわる」「プロフェッショナリズムに満ち溢れた企業」「継続的に発展することで社会に貢献」といった目標のもと、日本でのものづくりにこだわり、独自の技術開発に果敢に取り組んでおります。

## 環境への取組みの考え

当社は、持続可能な循環型社会の早期実現に向け、電子機器製造業に関わる企業として、地球温暖化防止や低炭素社会の構築に向けたCO<sub>2</sub>低減をはじめとする環境問題への取組みを加速させ、環境に優しい製品の『開発/設計』と環境負荷低減に資する『ものづくり』を通して、お客様、社会・環境との調和を図り、地域・社会からの信頼を得られる企業として一層の努力を続けてまいります。

本報告書を通じて、弊社の環境保全への取組みをご理解頂くとともに、皆様のご支援、ご愛顧を賜りますように心よりお願い申し上げます。

ケイテック株式会社 代表取締役社長 **高橋 匡芳**

## 目次

はじめに、環境への取組みの考え、目次	1
1. 会社概要	2
2. 事業・製品概要	3
3. 環境方針	4
4. 環境管理組織	5
5. 環境保全活動	6～9
6. 環境リスク対策	10～12
7. 環境保全活動	13
8. コミュニケーション	13

# 1. 会社概要

- 社 名 ケイテック株式会社
- 設 立 2005年 4月
- 所 在 地 本 社  
神奈川県横浜市港北区新横浜3丁目19番地1  
LIVMOライジングビル 5階  
宮城テクノロジーセンター  
宮城県加美郡加美町字雁原325番地



- 資 本 金 1億円
- 従業員数 404名 (2017年10月現在)
- 役 員
 

代表取締役会長	野村 和正
代表取締役社長	高橋 匡芳
取 締 役	江端 悦次
取 締 役	新井 啓二郎
取 締 役	菊地 健治
取 締 役	佐藤 真一郎
常勤監査役	森田 剣
執行役員	後藤 武一

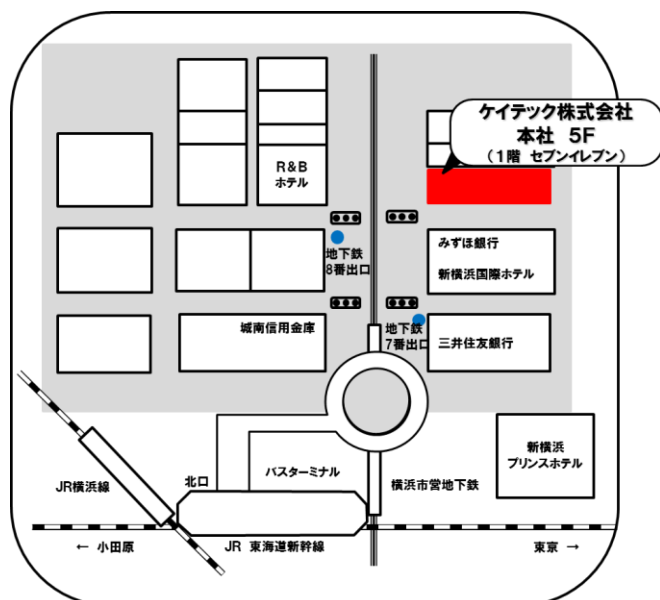


事業内容 電子機器の設計、試作、生産、サービス役務提供全般

- ホームページ <http://www.k-technology.co.jp/>

## 交通のご案内

- ケイテック 本社
  - ・横浜市営地下鉄「新横浜」7番/8番出口より徒歩 2分
  - ・JR東海道新幹線/JR横浜線「新横浜駅 北口」より徒歩 5分
- 宮城テクノロジーセンター
  - ・東北新幹線古川駅よりタクシー 20分
  - ・東北自動車道古川I.C.より 20分
  - ・仙台空港よりアクセス鉄道(快速)で仙台駅まで17分、東北新幹線で古川駅まで15分

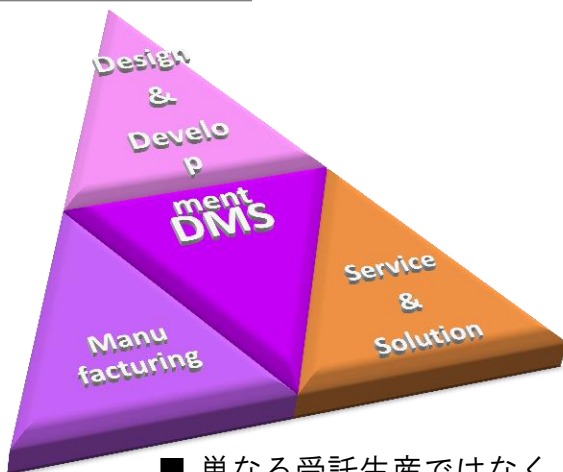


## 2. 事業・製品概要

Development & Design

開発・設計

- 量産設計に加え、企画構想、原理検討等も含む開発段階からの設計サービスをご提供



Service & Solution

サービス・ソリューション

- 製品修理/解析・信頼性評価 検証・VA/CD提案・商品企画等、弊社が保有するテクノロジー、ノウハウをご提供

Manufacturing

製造

- 単なる受託生産ではなく、品質を保証する工程設計や、生産設備開発までカバーする『ものづくりサービス』をご提供

ケイテック株式会社は電子機器の設計、試作、生産、サービス役務提供全般を事業内容とし、従来の受託生産(EMS)に開発と設計を加えたDMS(D+EMS)のコンセプトにより、Speed,Challenge,Creative の行動規範で、顧客満足向上の実現をめざします。

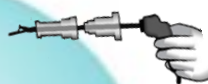
### 幅広い製品分野と多彩な製品カテゴリー

#### 車載機器関連



車載用カメラ 車載用液晶モニター 液晶モジュール

#### 医療機器関連



腹腔鏡手術用 鉗子ハンドル部 ・ コントローラー部

#### 通信・セキュリティ機器関連



高速スイッチングハブ (Business Use) ネットワーク 映像記録・配信装置

**コア技術**  
Key Technology

#### アミューズ・産業機器関連



アミューズ 制御基板 制御装置

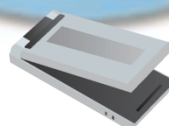
#### 環境・エネルギー関連



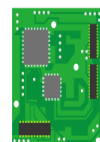
蓄電装置

バッテリー評価

#### 携帯機器関連



携帯修理業務



携帯基板生産業務

### 3. 環境方針



## 環境基本理念 Environmental Principle

ケイテック株式会社は、独立精神と自己責任のもと、環境問題が人類の最重要課題である事を認識し、企業活動のあらゆる面で環境保全に貢献します。

また、生物多様性にも配慮しその保全と持続可能な利用に取り組みます。

## 環境方針 Environmental Policy

1. DMS (Development/Design, Manufacturing & Service/Solution) 会社として行う全ての事業活動、製品及びサービスを通して全社員が環境への影響を認識し、環境汚染の予防及び環境負荷の低減を図り継続的改善を行う。
2. 事業活動に関わる法律、条例、協定及び当社が同意するその他の要求事項を順守し、必要に応じて自主基準を設定して管理を行う。
3. 技術的・経済的に可能な範囲で、環境目的、目標、プログラムを定め、定期的に見直しを行い、システムとパフォーマンスの継続的な向上を図り環境推進活動を行う。
  - ・ 事業活動で使用するエネルギーを可能な限り抑制し、温暖化の防止に努める。
  - ・ リデュース、リユース、リサイクルを推進し、廃棄物削減に努める。
  - ・ 顧客要求はもとより、製品及び製品使用時の環境負荷低減に取り組む。
  - ・ 業務効率及び生産性の向上を図り、資源の有効活用に努める。
4. 環境方針の理解と環境に対する意識向上を図るため、教育・訓練、社内広報活動などを全従業員に行う。  
また、当社のために働く全ての人にも周知させる。
5. この環境方針は、一般の人々が入手可能で外部への公開も行う。

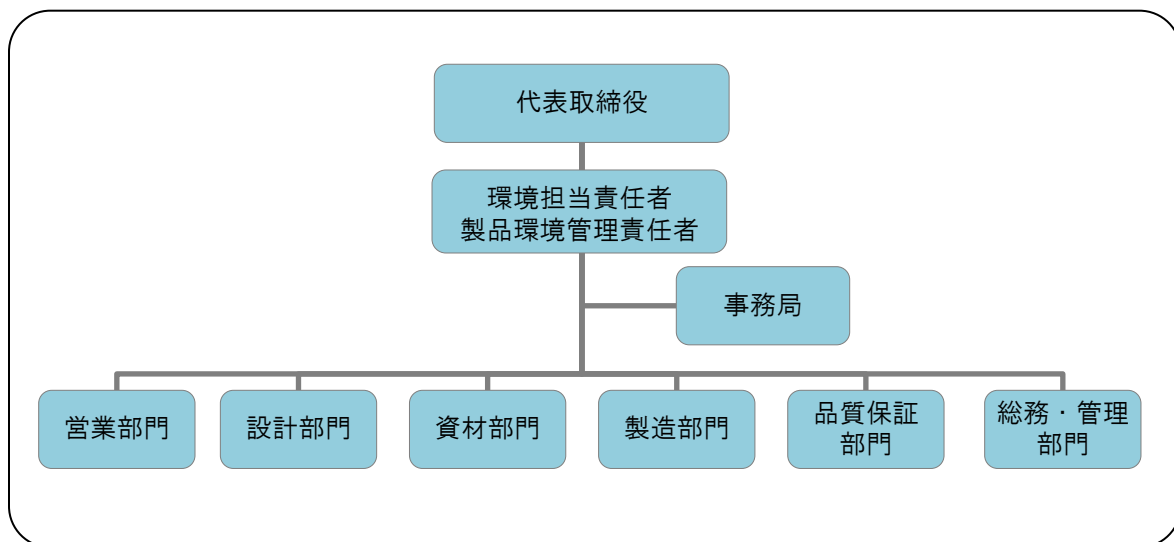
2014年 9月 16日

ケイテック株式会社 代表取締役社長

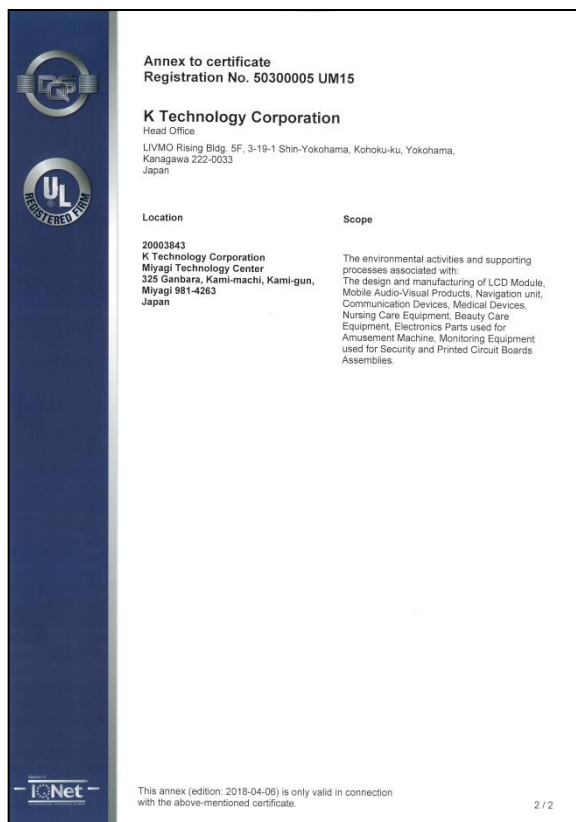
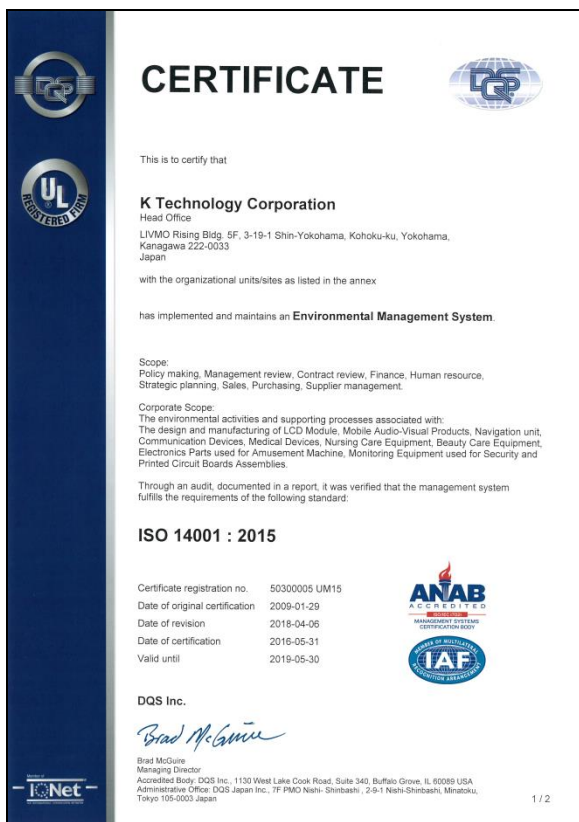
高橋匡芳

## 4. 環境管理組織

環境マネジメントシステムを推進するために推進組織を編成し、環境活動の方向性、活動について審議・決定を行い、PDCAサイクルによる継続的な改善に努めています。



ケイテックは環境マネジメントシステムに関する国際標準規格ISO14001:2015の認証を取得しております。



環境マネジメントシステム規格  
ISO14001:2015 認証取得  
50300005 UM15

## 5. 環境保全活動

ケイテックは、生物多様性による自然の恩恵を大切に、自らの企業活動だけでなく地方自治体との連携や地域貢献活動を通じて、その保全と持続可能な利用に取り組んでいます。

事業計画時点より地域社会に及ぼす影響を把握・分析し、影響度の高い項目については測定と監視を行い、その結果を環境報告書で公表しております。

また、資源循環型経営を推進し、二酸化炭素排出量（CO<sub>2</sub>）の削減、3R（リデュース、リユース、リサイクル）、省エネルギー活動、グリーン調達活動を実施にて持続可能な循環型社会の実現に向けてより高度なエコマネジメントを実践してまいります。

目的	取組み内容		中期目標 (2018年度まで)		2017年度	
					目標	実績
温暖化防止	省エネ設計の推進	省電力設計、省エネ部品選定・置換え検討、省エネ構造、梱包設計検討などの推進	省エネ対策案	31件以上/年	29件/年 以上 (CO <sub>2</sub> 排出削減量： 96tCO <sub>2</sub> )	30件 (CO <sub>2</sub> 排出削減量： 103.5tCO <sub>2</sub> )
	省エネルギー	① 空調システム運転条件見直し ② 電力中央監視システムによる最適制御 ③ 生産エリアレイアウトの効率化 ④ 不要時間帯の設備停止 照明消灯などのムダ削減 ⑤ 非効率設備の見直し	CO <sub>2</sub> 換算 エネルギー削減量	前年比 ▲1%以上 継続	前年比 ▲1%以上	前年比 ▲1%
廃棄物削減	3R活動推進	① 一般廃棄物の細分別化推進によるリサイクル率の向上 ② 細分別化によるサーマルリサイクルの材料リサイクル化推進 ③ 廃棄物の細分別化による廃実装基板等の有価リサイクル推進	リサイクル率	96.7%以上 継続	96.7%以上	96.7%
環境負荷低減	グリーン調達	① 部品・材料お取引先の体制確認の実施 ② お客様ガイドラインへの適合管理実施 ③ 部品評価や受入検査の管理実施	環境法規制とお客様ご要求に対する購入品の適合率	100% 継続	100%	100%

## 1) 省エネ設計の推進

### 【環境に配慮した製品・技術開発】

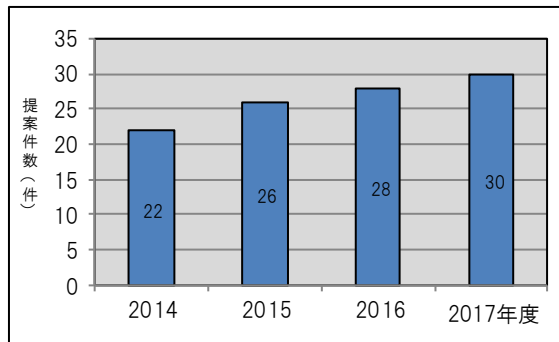
当社は、地球に優しい持続可能な社会（低炭素、循環型）の実現のため、製品の設計開発段階から環境に及ぼす影響を検討し、環境負荷低減に向けた様々な角度からの省電力設計、省エネ部品選定、置換え検討、省エネ構造、梱包設計検討などを積極的に行うことにより、省エネ推進を行っています。

この推進活動にて、2017年度は省エネ設計提案件数が30件で目標の29件以上を達成しました。尚、この提案で29件が採用され、CO<sub>2</sub>排出削減量として算出した場合、総CO<sub>2</sub>排出削減量として103.5tCO<sub>2</sub>相当となり、目標の96tCO<sub>2</sub>以上を達成しました。

### 【評価指標及び主な評価項目】

	評価指標	主な評価項目
1	環境安全性	部品の含有化学物質、製造工程化学物質
2	省エネルギー	製品設計での省エネルギー性
3	減量化	製品の小型化・軽量化
4	部品点数	部品点数の削減化
5	再生資源化	部品の再利用・再資源化
6	分解/処理容易性	解体・分解容易性、分解時間等
7	梱包材	梱包材の減量化・含有化学物質等

### 【省エネ設計提案件数の推移】



### 【対策案 採用案件からのCO<sub>2</sub>排出削減量】

算出項目		CO <sub>2</sub> 排出削減量 (tCO <sub>2</sub> )
電子部品	電子機器製品の消費電力削減CO <sub>2</sub> 換算	103.5
樹脂部品	樹脂部品焼却廃棄によるCO <sub>2</sub> 排出量 *1	

算出した数値は、採用案件毎のシミュレーションによるCO<sub>2</sub>排出削減量 (CO<sub>2</sub>排出削減量 (1台当り) × 年間生産台数) を合計した参考値となります。

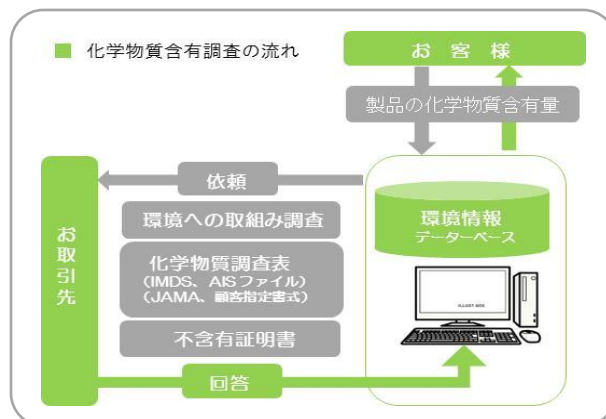
\*1: 樹脂部品のCO<sub>2</sub>排出削減量は、焼却廃棄物として算出しております。実際には、リサイクル等として循環する資源があります。また、部品生産工程や製品生産工程に関連する削減効果は含まれておりません。

## 2) グリーン調達

### 環境負荷化学物質の低減と法令遵守への取組み

現在、世界的な環境配慮志向の高まりの中、欧州のRoHS指令・REACH規制などの環境法規制やお客様の環境に関する調達ガイドラインが制定されています。ケイテックでは、調達する部品・材料における特定化学物質の非含有の確認は極めて重要と捉え、環境負荷化学物質の低減と法令遵守を目的に取組みを行っています。

化学物質の調査結果は、データベースで蓄積・管理し購入部材としての適合性を判断し各指令や規制お客様調達ガイドラインに適合していることを確認しています。また、これらの情報を用い、お客様からの多数の環境調査依頼に対応しております。





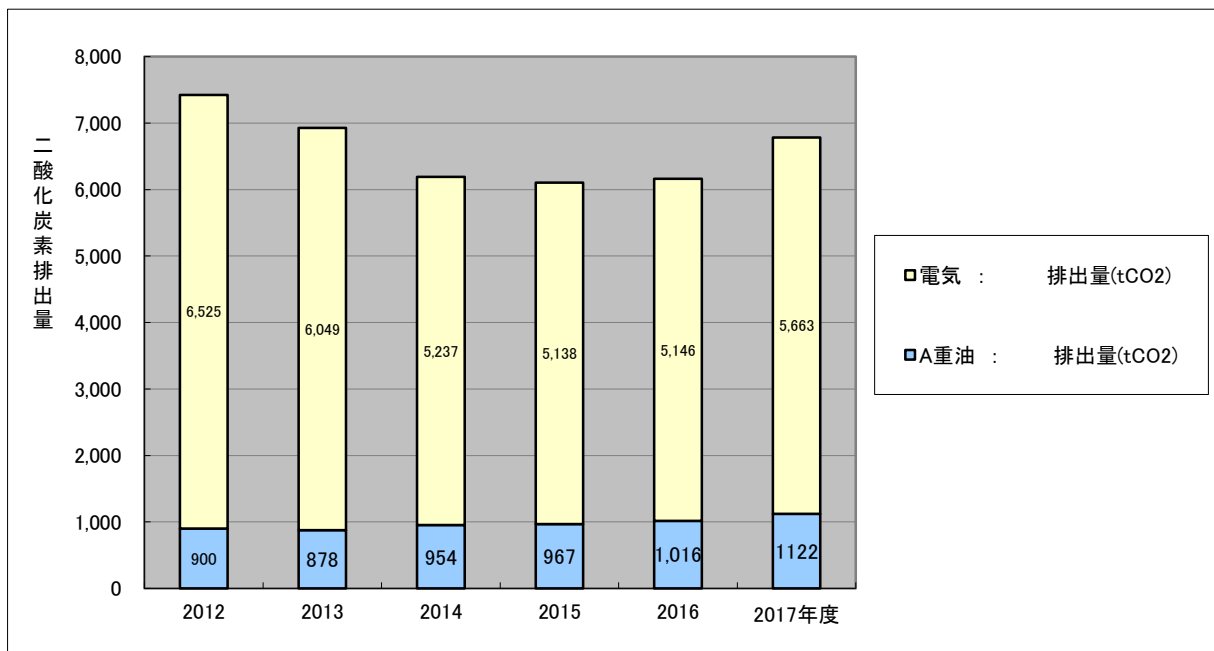
### 3) 省エネルギー

当社は、省エネ法における電気・燃料を合算した原油換算の年間使用量が3,000kℓを超えていることから、第一種エネルギー管理指定工場に指定されており、エネルギー管理統括者並びにエネルギー企画推進者を選任し省エネ活動を推進しています。

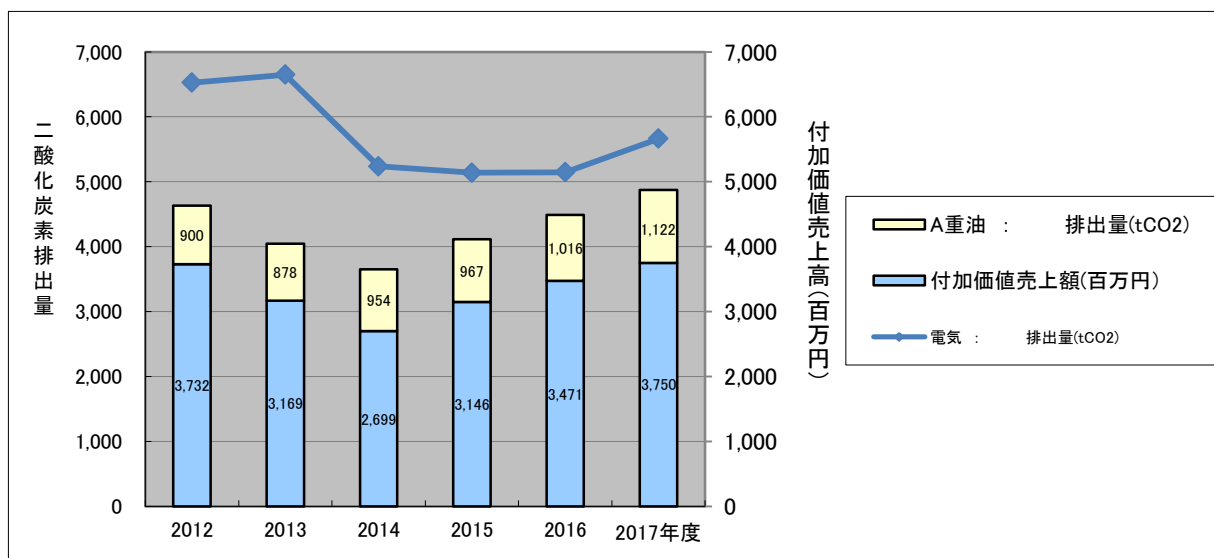
主な活動として、天井照明の高効率化（LED化）や生産用エアークOMPRESSORのインバーター化、各種ポンプ類へのインバーターの設置の他、空調システムの運転条件見直しや中央監視システムによる最適制御などの効率改善、生産エリアの効率化を考慮したレイアウト、不要時間帯の設備停止・照明消灯、エアリーク定期補修などのムダ削減の活動を継続して取り組んでいます。

#### 【全社：エネルギー使用量】

会社運営における全ての使用エネルギー（電気、A重油）の2017年度実績は、工場施設運営の条件見直しや効率改善を実施し、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）換算で前年比 約▲1.0%の減少となりました。



#### 【全社：原単位推移 二酸化炭素排出量／付加価値売上高（百万円）】



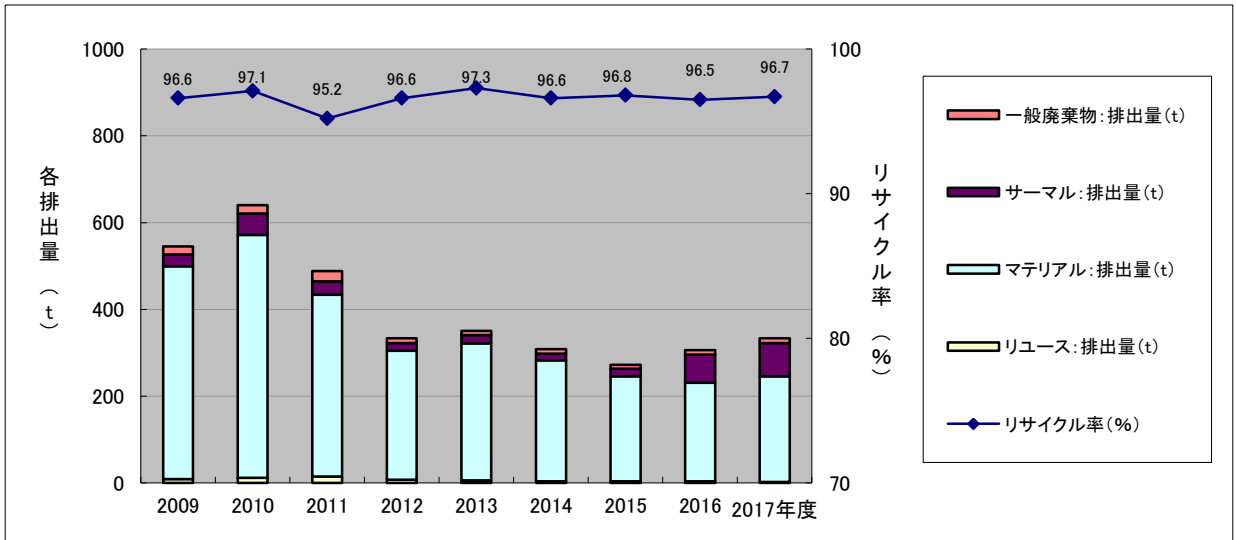
## 4) 3R活動推進

当社では、『ゼロエミッションの定義』をリサイクル率 = 総リサイクル量 ÷ 総排出量 × 100 と定め、2017年度の活動として主に以下の取組みを行っています。

- ① 一般廃棄物（紙類、廃プラスチック）の更なる分別を行い、リサイクル率の向上を図る
- ② 細分別化推進によるサーマルリサイクルからマテリアルリサイクルへの質の向上を図る
- ③ 廃電気(電子)機器等を分解し、実装基板・板金・プラスチック等に分別を行い、有価取引を実施

### 【再資源化推進取組み】

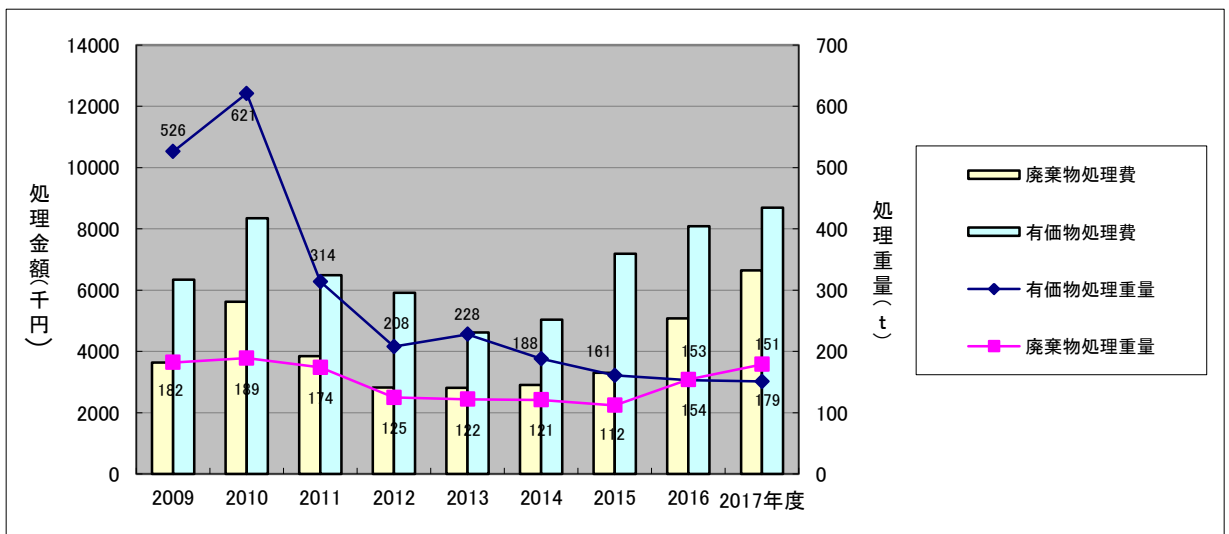
リサイクル率は2017年度 実績 96.5%となりました。引き続き、生産活動に付帯する用品の廃棄量削減／リサイクル化へ取り組み、更なるリサイクル率向上を図って参ります。



### 【廃棄物削減と有価リサイクル化への取組み】

廃棄物の細分別化推進による廃棄物の有価リサイクル化により、有価物としての再資源化も維持してきました。

引き続き、埋立てゼロに向けた活動と共に、リデュース・リユース・リサイクルを推進し、廃棄物量削減を行っていきます。また、排出事業者の処理責任を基本とし、処理委託の履行並びに該当法規の順法等を確認する為に、継続して処理委託先の定期視察を行っていきます。



## 6. 環境リスク対策

### 1) 環境法規制への対応

水質汚濁防止法、大気汚染防止法、騒音・振動規制法等の環境に関する法規制、条例、協定に対しては、可能な限り各基準より厳しい当社独自の「自主基準」を設定し管理をしています。

また、関連法規制の新施行、改訂などについて定期的に最新情報の監視・把握を行い、関係者への周知、教育も含めて法規制順守の対応を図っています。

【水質汚濁防止】	単 位	規制値 (2018年4月3日測定)				
		法 令	条 例	協 定	自主基準	実測 (浄化槽)
水素イオン濃度 (pH)	—	5.8~8.6	5.8~8.6	—	6.0~8.4	7.1
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/ℓ	160以下	160以下	20以下	18以下	0.9
浮遊物質 (SS)		200以下	200以下	—	20以下	1.0未満
ノルマルヘキサン抽出		30以下	30以下	—	10以下	0.5未満
大腸菌群数	個/cm <sup>3</sup>	3,000以下	3,000以下	—	1,500以下	0

【大気汚染防止】	単 位	規制値 (2018年6月16日測定)		
		法 令	自主基準	実 測
ばいじん濃度	g/Nm <sup>3</sup>	0.3以下	0.1以下	0.006
硫黄酸化物量 (SOx)	Nm <sup>3</sup> /H	3.27(K=17.5)以下	0.5(K=17.5)以下	0.026
窒素酸化物濃度 (NOx)	PPM	260以下	100以下	47

※ ボイラーの燃料は、LSA重油を使用しております。硫黄成分は0.1%以下です。

【騒音・振動規制】	単 位	規制値 (騒音：2017年9月26~27日測定)			
		法 令	条 例	自主基準	実 測
騒音値 朝 (6:00~8:00)	dB	55~65	55	48	46.8 ②
騒音値 昼 (8:00~19:00)		60~65	60	53	52.7 ①
騒音値 夕 (19:00~22:00)		55~65	55	48	43.1 ②
騒音値 夜 (22:00~6:00)		50~55	50	45	43.3 ②

※ 実測欄の①②は騒音測定ポイント (環境施設・工場排水レイアウト図 P12参照)  
 ※ 振動は、過去のデータが規制値の半分程度で変化が無い為 2009年から定期測定は実施していません。

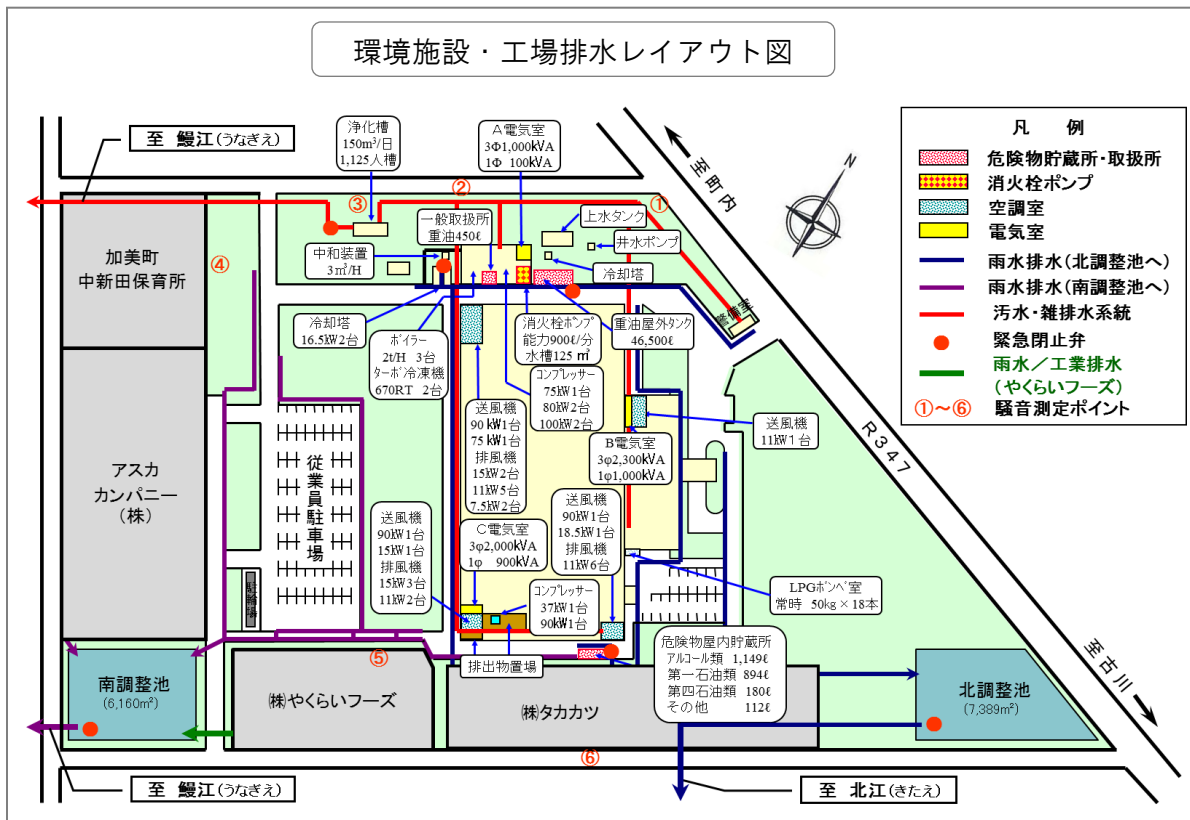
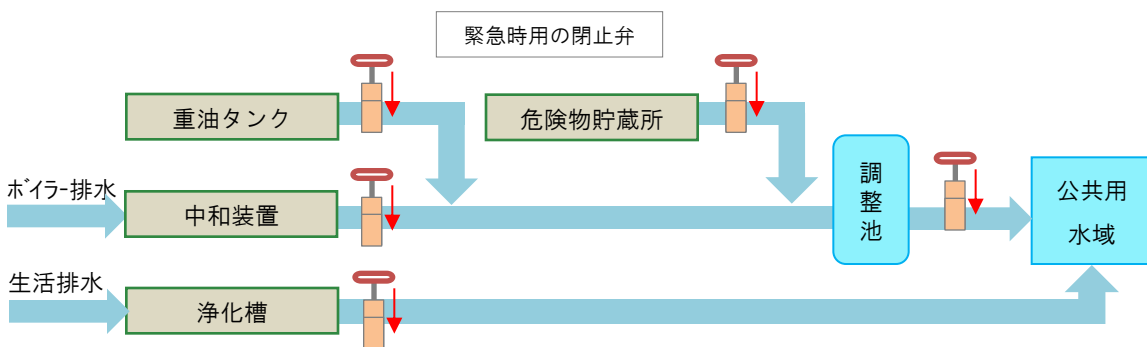
## 2) 環境リスク対応及び訓練

### ① 環境リスク対応

環境リスク対策として、緊急時（漏洩時）に環境に影響を及ぼす可能性の大きい「重油屋外タンク」「屋内貯蔵所」などの危険物貯蔵施設には、漏洩防止対策として施設付近に「流出防止側溝」「緊急時閉止弁」「緊急時用備品箱」などを設け、河川への流出防止並びに土壤汚染の防止対策を実施しています。

更に埋設配管を地上露出配管に変更するなどの見える化（早期覚知）を図っています。

#### 【汚染防止策：河川流出防止設備】



## ② 緊急時訓練

緊急事態を想定した「緊急時訓練」を関係者全員参画で1年に1回以上実施し、危険物の特性についての講義や、緊急時用備品の使用方法及び緊急連絡網による通報訓練を行っています。また、1年に1回 全社員対象に「非常時に対応するための総合防災訓練」を実施しています。

### 【屋内貯蔵所・重油屋外タンク貯蔵所の緊急時訓練】



### 【総合避難訓練】



## ③ 第三者機関による監査

環境リスク対応および訓練の状況は、年1回のISO14001認証審査機関による審査にて運用の評価を頂いております。



審査員(写真中央)による現地審査風景

## 7. 環境保全活動

### 1) 地域社会への寄与（美化活動等）

工場敷地内及び周辺道路の清掃活動を定期的を実施しております。車からのポイ捨てと思われる空き缶や空き瓶、お弁当の容器など多くのゴミが見受けられましたが、この清掃活動は工場周辺の美化だけではなく、社員のマナー意識の向上やゴミのポイ捨て減少につながっています。これからも継続して実施し、地域社会の環境保全に貢献していきます。



社員による清掃活動

### 2) 緑化推進

緑豊かな工場造り及び緑化活動の一環として敷地内に植樹及び桜の植栽を行い、将来にわたり桜並木やケヤキ並木を育てていきます。

2017年はケイテック創立14周年を記念し『サクラ』を植樹しました。



【創立14周年記念植樹】

## 8. コミュニケーション

### 1) ビジネスコンファレンスの開催

お取引させて頂いているお客様、パートナー様にご出席頂き『BusinessConference2017』を本社近郊のホテルにて開催しました。（ご来場社数：76社）

事業計画及び品質、環境に関わる取組方針をご説明し、当事業活動へのご理解、ご協力をお願いを致しました。

今後もお客様、パートナー様との相互理解・信頼関係に基づき強固な協力体制の構築に努めて参ります。



【Business Conference 2017会場】



【会場風景】



**レポート対象範囲**

対象期間：2017年7月～2018年6月

対象組織：ケイテック株式会社 本社・宮城テクノロジーセンター

この報告書に関するご意見やお問い合わせは下記までご連絡下さい。

**ケイテック株式会社**

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜3丁目19-1

LIVMOライジングビル5F

Tel：045-548-9333(代) Fax：045-548-5982

URL <http://www.k-technology.co.jp/>